- p.4, (iii) $r < -1$ の場合の部分 :（誤） 例 1.1.2　(正) 例 1.2.2
- p.4, 例 1.2.3（ii） $\dfrac{1}{R^n}$ の不等式評価の不等号の向きと最後の項を以下のように変更
$$\frac{1}{R^n} \leqq \frac{1}{1+nk} \leqq \frac{1}{nk}$$
- p.9, 例 1.3.1（誤) 級数 $\displaystyle\sum_{n=1}^{\infty} ar^n$　(正) 級数 $\displaystyle\sum_{n=1}^{\infty} ar^{n-1}$
- p.9, 定理 1.3.1 の $|a_n|$ の評価を以下のように変更
$$|a_n| = |S_n - S_{n-1}| \leqq |S_n - S| + |S_{n-1} - S| \to 0 (n \to \infty)$$
- p.24, 例 2.2.1 および 例 2.2.2 において,（誤）例 2.0.9 参照　（正）例 2.0.8 参照
- p.28, 例 2.3.2 (2) の極限値　（誤）3 （正）7
- p.34, 例題 2.4.2 の解答で引用している定理の番号　（誤）2.3.6　（正）2.4.2
- p.50 上から 8 行目 :（誤）定理 2.3.7　（正）定理 2.4.4
- p.51 定理 3.4.4（ロピタルの定理）:（誤）$|g(x)| > 0$　（正）$g'(x) \neq 0$
(**注意**) $g'(c) = 0$ となる $x = c$ がある場合には，ロピタルの定理が主張する結果に対する次の反例がある :
（反例）$\boldsymbol{R}$ 上で定義された関数 f, g を
$$f(x) = \begin{cases} \dfrac{1}{\frac{1}{x} + \sin\frac{1}{x}\cos\frac{1}{x}} & (x \neq 0) \\ 0 & (x = 0) \end{cases}, \quad g(x) = \begin{cases} \dfrac{1}{\left(\frac{1}{x} + \sin\frac{1}{x}\cos\frac{1}{x}\right) e^{\sin(1/x)}} & (x \neq 0) \\ 0 & (x = 0) \end{cases}$$
と定めると，$f'\left(\dfrac{2}{\pi}\right) = g'\left(\dfrac{2}{\pi}\right) = 0$ である．このとき，$\displaystyle\lim_{x\to 0} \frac{f'(x)}{g'(x)} = 0$ であるが，$\displaystyle\lim_{x\to 0} \frac{f(x)}{g(x)}$ は存在しないことを確かめることができる．(ロピタルの定理はコーシーの平均値の定理（演習問題 3.4.6）を用いて証明することができるが，この例の関数はコーシーの平均値の定理の例外的ケース『$f'(c) = g'(c) = 0$』を引き起こしていて，そのためにロピタルの定理の主張のようなことがおこらない.)
- p.55 上から 2 行目右辺の最後の項 :（誤）$(1 + \theta x)^{\mu-n}$　（正）$(1 + \theta x)^{\mu-n+1}$
- p.78 下から 9 行目の右辺の項の $\displaystyle\sum_{i=1}^{n}$ を削除

- p.79 下から 2 行目：（誤）命題 4.4.1　（正）命題 4.4.2
- p.80 上から 5 行目：（誤）定理 2.3.7　（正）定理 2.4.4
- p.85, 演習問題 4.4.5 (3) において $\dfrac{d}{dx}$ が欠落
- p.95, 例題 4.6.2 の問題文中：（誤）x　（正）x 軸
- p.105 例題 5.2.1(2) の解答文中最後の式：（誤）$\lim_{x\to 0}$　（正）$\lim_{y\to 0}$
- p.110 下から 1 行目：（誤）平均値の定理（定理 3.4.1）（正）平均値の定理（定理 3.4.3）
- p.112 式 (5.5.3) の下の行：（誤）$(h, k) \to 0$　（正）$(h, k) \to (0, 0)$
- p.115 定理 5.5.4 および，その 2 行上：（誤）連鎖率　（正）連鎖律
- p.117 上から 3 行目：（誤）テイラーの定理の式（定理 3.4.3）　（正）テイラーの定理の式（定理 3.4.5）
- p.117 定理 5.6.1 の 4 行上の式の右辺：（誤）$h^{j-r}k^{j}\dfrac{\partial^j f}{\partial x^{j-r}y^r}$

  （正）$h^{j-r}k^{r}\dfrac{\partial^j f}{\partial x^{j-r}\partial y^r}$
- p.118 上から 1 行目：（誤）定理 3.4.4　（正）定理 3.4.6
- p.119 上から 1 行目と 2 行目:（誤）$P_n(x-y, y-0)$　（正）$P_2(x-y, y-0)$
- p.120 上から 2 行目：（誤）系 3.4.1　（正）系 3.4.2
- p.122 演習問題 5.7.1(1)：関数が例題 5.7.1 の関数と同じであるため，$f(x, y) = \tan^{-1} x \tan^{-1} y$ へ変更.
- p.124 演習問題 5.8.1(1)：問題が例題 5.8.1 と同じであるため変更：$f(x, y) = x^3 - y^2 - 2xy + 2y$, 点 $(2, 2)$
- p.124 演習問題 5.8.2(3):関数の式（誤）$f(x, y, z) = \sin(x+z)+\cos(y+z)$　（正）$f(x, y, z) = \sin(x+z) + \cos(yz)$
- p.124 演習問題 5.8.2(3)：点の座標（誤）点 $(\frac{2}{3}\pi, \frac{1}{6}\pi, \frac{1}{12}\pi)$　（正）点 $(\frac{\pi}{3}, \frac{4}{3}, \frac{\pi}{2})$
- p.138 演習問題 6.1.2:（誤）連続な $f(x, y)$　（正）連続な $f(x, y)$, $g(x, y)$
- p.139 演習問題 6.1.4(2)：（誤）2 つの直線 $y = 0$, $y = -x + 2$　（正）2 つの直線 $x = 0$, $y = -x + 2$
- p.139 演習問題 6.1.7(2) の左辺：（誤）$\int_0^y$　（正）$\int_0^x$

- p.158 演習問題 6.4.3 : 3 つの重積分の被積分関数を修正　（誤）$\dfrac{x-y}{(x+y)^2}$
  （正）$\dfrac{x-y}{(x+y)^3}$
- p.169, （誤）https　（正）http
- p.173 1.2.1 の解答 :（誤）-1　（正）0
- p.173, 1.2.3 の解答 :（誤）(1) 3 (2) 4　（正）(1) 3 (2) 3（3）4
- p.174, （誤）2.3.$*$　（正）2.4.$*$
- p.174, 2.3.2(2) の左極限 :（誤）$-\infty$　（正）∞
- p.175, 演習問題 4.1.1 (1) :（誤）$\dfrac{1}{2}x^4-\dfrac{5}{2}x^2+2$　（正）$\dfrac{1}{2}x^4-\dfrac{5}{2}x^2+x$
- p.176, 演習問題 4.4.1 (3) （誤）$\dfrac{\pi}{16}$　（正）$\dfrac{\pi}{4}$
- p.176, 演習問題 4.4.2 (1) （誤）$\dfrac{1}{2}\log(1+x+x^2)+\sqrt{3}\tan^{-1}\dfrac{2x+1}{\sqrt{3}}$
  （正）$\dfrac{1}{2}\log 3+\dfrac{\sqrt{3}}{6}\pi$
- p.176, 演習問題 4.4.2 (6) （誤）$\log 2-2+\dfrac{\pi}{4}$　（正）$\log 2-2+\dfrac{\pi}{2}$
- p.176, 演習問題 4.4.5 (1) （誤）$3x^2f(1+x^2)+2xf(1-x^2)$　（正）$3x^2f(1+x^3)+2xf(1-x^2)$
- p.176, 演習問題 4.5.1 (1) （誤）$\dfrac{3}{4}$　（正）$\dfrac{4}{3}$
- p.178, 演習問題 5.6.1 (4) （誤）$1+x+y+\dfrac{1}{2}(x^2+2xy+y^2)$　（正）$1-x+y-\dfrac{5}{2}x^2-xy-\dfrac{5}{2}y^2$
- p.178, 演習問題 5.7.1 (1) ：もとの演習問題 5.7.1 (1) が例題 5.7.1 と同じ問題であったため，関数を $f(x, y)=\tan^{-1}x\tan^{-1}y$ へ変更したことに伴う解答の変更．変更後の解答 : (0, 0) が停留点．また，極値はとらない．
- p.178, 演習問題 5.7.1 (4)（誤）点 $(x, y)=(0, 0), (\pm 1, 0), (0, \pm 1), (\pm\frac{1}{2}, \pm\frac{1}{2})$. また，点 $(\pm\frac{1}{2}, \pm\frac{1}{2})$ で極小値 $-\frac{1}{8}$ をとる．

  （正）$(x, y)=(0, 0), (\pm 1, 0), (0, \pm 1), (\pm\frac{1}{2}, \pm\frac{1}{2}), (\pm\frac{1}{2}, \mp\frac{1}{2})$ が停留点．また，点 $(\pm\frac{1}{2}, \pm\frac{1}{2})$ で極小値 $-\frac{1}{8}$ をとる．点 $(\pm\frac{1}{2}, \mp\frac{1}{2})$ で極大値 $\frac{1}{8}$ をとる．

- p.178, 演習問題 5.8.1 (1) ：もとの演習問題 5.8.1 (1) が例題 5.8.1 と同じ問題であったため，問題を「曲線 $x^3 - y^2 - 2xy + 2y = 0$ の点 (2, 2) における微分係数 y' と接線の方程式を求めよ」へ変更したことに伴う解答の変更．変更後の解答：$y'(2) = \dfrac{4}{3}$, $y = \dfrac{4}{3}x - \dfrac{2}{3}$
- p.178, 演習問題.8.2 (2) （誤）$z_y(1,\,2) = \dfrac{1}{6}, \quad z = \dfrac{4}{3}x + \dfrac{1}{6}y - \dfrac{2}{3}$

  （正）$z_y(1,\,2) = -\dfrac{1}{6}, \quad z = \dfrac{4}{3}x - \dfrac{1}{6}y$
- p.178, 演習問題.8.2 (2) （正）$z_x(\dfrac{\pi}{3},\,\dfrac{4}{3}) = -\dfrac{3}{7}$, $z_y((\dfrac{\pi}{3},\,\dfrac{4}{3}) = -\dfrac{3\pi}{14}$, $z = -\dfrac{3}{7}x - \dfrac{3\pi}{14}y + \dfrac{13\pi}{14}$
- p.179, 演習問題 6.2.1 (2)（誤）$\pi\left(1 - \cos\dfrac{\pi^4}{16}\right)$ （正）$\pi\left(1 - \cos\dfrac{\pi^2}{4}\right)$